ぶしょうかんじょうき

#13 武将感状記

作者：熊沢淡庵（くまざわ・たんあん　1629-1691）
刊行：正徳６年（1716）

◇◇◇

などの諸版が確認でき、広く一般に流布したと思われる。当館所蔵本には刊年の記載はないが、発行者としては江戸日本橋須原屋茂兵衛、大阪秋田屋太右衛門、備前片上屋、備中太田屋など 12 の書肆の名が記載されている。

■　作者

作者は熊沢淡庵。名は正興、通称権八郎、猪太夫。砕玉軒とも号した。寛永６年（1629）平戸に生まれ、はじめ平戸藩に仕えるが、若くして浪人し、三百石で備前岡山藩に仕えた。元禄３年（1690）南條氏と姓を改め翌年江戸で没した。墓所は浅草本智院。儒者。熊沢蕃山の妹の夫であり、和歌を中院通茂（なかのいん・みちもり）、飛鳥井雅章に学び、連歌,俳諧をよくした。『武将感状記』のほかに、『淡庵俳句集』『応兵記』などの著がある。

📖　本文を読む

＜翻刻＞

「武将感状記」（『続帝國文庫』第 31 編 江見水蔭校訂 博文館 1911）
［918/8/31］　※序文は収められていない

『武将感状記』熊沢正興編 人物往來社 1967［281.08/8］

「武将感状記」（『武士道全書』第８巻 佐伯有義ほか編 国書刊行会 1998）
［156/113/8］　※17 話抄録（時代社　昭和 18 年刊の複製）

＜現代語訳＞

『武将感状記』真鍋元之訳 金園社 1972　※当館未所蔵

📖　参考文献

植木直一郎「解説」（『武士道全書』第８巻 佐伯有義ほか編 国書刊行会 1998）［156/113/8］

鈴木孝庸「武将感状記」（『戦国軍記事典　天下統一篇』古典遺産の会編 和泉書院 2011）［913.43/171/2］

井上泰至「戦国武将伝のベストセラー　熊沢淡庵『武将感状記』」（『江戸文学を選び直す』井上泰至、田中康二編 笠間書院 2014）
※当館未所蔵　翻刻・現代語訳を４話収録